

Chapter IV

大巡思想の自生的近代性と治乱(治亂)の再活性化

Autogenous Modernity and Revitalization of Order in Daesoon

研究の概要および目的

本研究は大巡思想を通じて韓国近代思想史の自生的近代性と治乱(治亂)問題の宗教的解法を考察する。

主要な研究意義は、韓国宗教思想における大巡思想の位相の再照明および三界観を中心とした思惟構造の分析にある。

1. 序論および研究目的

大巡思想研究の背景と学術的意義

2. 大巡思想/東学思想 の比較

天觀の相違点と関連性

3. 人身降世の概 念

4. 天界觀(三界)の 特徴

大巡思想の核心的神
論

5. 自生的近代性の意 味

三界構造と神明界

西欧近代性との差別化

6. 治乱(治亂)体 系

7. 再活性化の過 程

解冤・報恩・相生の原理

8. 思想統合

天地公事と三界公事

儒仏仙と西洋思想の融合

9. 現代的意義

大巡思想の現在的価値

10. 結論

研究成果と今後の課題

大巡思想と東学思想の比較

東学思想

大巡思想

- 超越天の出現のみを提示(象徴的)・上帝の人身降世(実体的介入)
- 鬼神(神明)概念が部分的にのみ反映・神明界を具体的システムとして体系化
- 現世的救済(輔国安民)中心・解冤報恩を中心とする三界の怨恨の解消
- 聖-俗境界の可能性の提示段階・人身降世と神明界による境界統合の完成

人身降世(人身降世)概念

九天上帝(九天上帝)が人間の身で直接世に降臨した現象

- ・ 超越的存在の実体化-天(九天)が人間として生まれ、人間の立場から天と地の姿を見て改造する
- ・ 東学との差別性-東学は啓示と出現に留まったが、大巡は直接的な人身降臨へと拡張
- ・ 天地万物改造の道-天と地を作り変え、後天開闢の基盤を築く

「上帝が九天におられたとき、神聖仏菩薩などが、上帝でなければ
混乱に陥った天地を正すことができないと訴えたため.....自ら世に降
ることを定められた。」

- 『典經』

天界観・天界観の特徴

- 三界(三界):天界、地界、人界から成る有機的な神明界システム
- 「天の上の天」構造-9重以上の重層的天界の階層
- 天界は神明(仏・菩薩・神聖など)の会散(會散)と聴令(聽令)の過程
- 古き天と新しき天-天界の可変性と再活性化
- 神明界と人間界の相互作用構造の体系化

『典 経』の一節

「古き天は人を殺す公事のみを見ていた。今後、日用百物がすべて欠乏

天界(天界)

九天上帝、神聖・仏・菩薩などが会散・聴令する世

地界(地界)

地の神明たちが主宰し地気(地氣)が運行する世界

人界(人界)

人間と神明が相互作用する現実的生活世界

自生的近代性の意味

西欧近代性との差別化

- 物質中心の西欧近代性から、天地三界・神明造化中心の存在論的拡張へ
- 西洋の「神は死んだ」という全面的否定の代わりに、継承・発展の加宗(加宗)方式
- マテオ・リッチによって招来された近代文明の弊害の克服を目標

独自の発展様相

- 民族主義的限界と西欧模倣を超越した自生的変革の思惟
- 聖-俗の境界の再配置およびリミナリティ(境界状態)の完成形
- 実体を持つ人身降世による形而上学的近代性と脱近代的システムの確立
- 天地神明の実体化を通じた西洋・東洋二元論の克服

自生的近代性と西欧近代性の比較

区分	西欧近代性	大巡思想の自生的近代性
----	-------	-------------

三界の怨恨と治乱の循環

- 先天における相克により、三界(天界・地界・人界)に怨恨が累積
- 乱(亂)の発生:天地人三界の秩序の攪乱と怨恨の持続的増加
- 天地公事と三界公事を通じた乱(亂)から治(治)への転換過程

治乱の核心原理

- 解冤(解冤):万古の怨恨と隻(隻)を解消する根本原理
- 報恩(報恩):恩に報い相生の土台を築く実践
- 相生(相生):相互共存と調和を通じた後天仙境の建設



治の再活性化過程

天地公事(天地公事)

- 古き天と地の作り変え - 宇宙構造の再整備
- 上帝の人身降世を通じた直接的介入と改造
- 神明界と人間界の秩序の同時再定立
- 後天開闢(後天開闢)を通じた新たな天地秩序の構築

「今、天も作り変え地も作り変え、水も漏れぬよう度数を組んでおいたので、各自の限度に従い到達するにつれ、新たな基盤が開かれるだろう。」

- 『典經』

三界公事(三界公事)の実現

- 1 冥府公事(冥府公事):天界と地界の相互関係の調整
- 2 解冤(解冤)と報恩(報恩):三界の怨恨解消と新秩序の確立
- 3 神人調和(神人調和):神明界と人間界の有機的結合
- 4 仙境仙境建設地上天国の現実化および治台の完成

儒仏仙(儒佛仙)の統合と西洋思想の受容

- 伝統儒仏仙三教の形而上学的原理を実体化して統合
- 陰陽五行、元亨利貞、十二運星などの東洋宇宙論を体系的に再活性化
- 西洋近代思想の物質主義、超越性の概念を独自の観点から再解釈
- 西欧的近代性と異なる自生的近代性および脱近代性体系の確立



現代社会における価値

- 多元社会の葛藤解消と社会統合のための解冤・相生の実践的原理を提供
- 物質中心の西欧近代性を超えた、人間・自然・神明界の調和ある共存モデルを提示
- 現代人の精神的危機と疎外に対する代案的世界観および修行体系の確立

未来展望と含意

- 生態・環境危機に対応する天地人三界の統合的生命観の活用可能性
- 科学技術の発展と調和をなす新たな霊性(靈性)言説の基盤形成

市田田相レ宗教の統合とトナリ生手のための特異的パラダイムの構築

結論および今後の課題

研究成果

- 大巡思想の人身降世の天界観が持つ自生的近代性の特徴の究明
- 東学思想との比較を通じた天観・地観・人間観の独自の発展様相の導出
- 三界観(天界・地界・人界)の体系的再構成と神明界の実体の体系化

治乱の再活性化の意義

- 解冤・報恩・相生の原理を通じた乱(亂)から治(治)への大転換モデルの提示
- 西欧近代性と差別化された韓国的近代・脱近代の思惟システムの確立

今後の課題